



大口町手話サークル コスモス (北児童センター)



大口おもちゃ図書館さくら (南児童センター)



高齢者疑似体験 うさぎとかめ (西児童センター)

大口町ボランティア連絡協議会 夏休みボランティア 出前講座

CONTENTS

- 2 ● じぶんの町を良くするしくみ。赤い羽根共同募金
- 3 ● 共同募金で、共同企画
- 4 ● 募金のつかいみち
- 5 ● 注目の話題
- 6 ● 平成24年度 社会福祉協議会事業報告 (抜粋)
- 7 ● 平成24年度 大口町社会福祉協議会 決算報告
- 8 ● 介護豆知識
- 9 ● 大口子育て情報 ぎゅっと
- 10 ● ボランティア情報局
- 12 ● 社協トピックス
- 13 ● シェフと作ろう! 災害時の非常食講座
- 14 ● 災害ボランティアコーディネーター養成講座

社会福祉法人 大口町社会福祉協議会

事務局 月～金(土日祝・年末年始休) 8:30～17:15
電話 (0587) 94-0060 FAX (0587) 94-0059
〒480-0126 大口町伝右一丁目35番地
大口町健康文化センター(ほほえみプラザ) 2階

ホームページ <http://www.oguchi-shakyo.or.jp>
Eメール chiikifukushi@oguchi-shakyo.or.jp





じぶんの町を良くするしくみ。 赤い羽根共同募金

あなたの募金は、あなたの町へ。地域で集めた募金は、地域で使われています。
その循環のしくみが、さまざまな民間の地域福祉を支える活動に役立てられています。

10月1日からスタート
12月31日まで実施します

平成24年度の共同募金運動について、多くの町民の皆様のご理解とご協力を賜り、例年を上回る成果を上げることができました。心よりお礼申し上げます。

今年度も、町民自らの行動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」をテーマに全国一斉に運動が始まります。

共同募金の助成は、高齢者サロンの運営や点訳ボランティアなど草の根のボランティア活動の費用から、障がい者作業所の車の整備・社会福祉施設の改修まで、さまざまな民間社会福祉活動を支援しています。

町民の皆さまをはじめ、町内企業様、協力団体様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

大口町共同募金委員会

会長 水野 多三男

大口町共同募金委員会 事務局

大口町伝右一丁目35番地

(大口町社会福祉協議会内)

TEL: 94-0060

FAX: 94-0059



誰もが身近なところで福祉に参加できます



戸別募金

区長さんを通じ、各世帯へご協力をお願いしています。

街頭募金

町民体育祭・町内スーパーマーケット3店舗で、ご協力をお願いしています。

職域・法人募金

町内店舗や町内企業に募金箱を設置していただき、ご協力をお願いしています。

平成25年度 赤い羽根共同募金目標額

3,574,000円

内訳

一般募金 3,333,000円
歳末たすけあい募金 241,000円

募金機能付き自動販売機

健康文化センター1階に設置している『赤い羽根共同募金』が目印の自動販売機。いつもと同じ金額で商品を購入するだけで、募金にご協力いただけます。



Q. 共同募金は、強制でないのになぜ目標額を定めるの？

A. 共同募金は、ただ集まった寄付金を配分すればよいものではありません。あらかじめ事業の必要性や緊急性を考え、**寄付者の方々に納得いただけるような配分計画を立て、その計画額を目標額として行う募金**です。共同募金会では、目標額を達成するため、目安額を提示しておりますが、寄付にあたっては任意で応分の寄付をいただければ結構です。

共同募金で、 共同企画

(コラボレーション)

若い世代に共同募金への関心を持っていただき、住民同士の支えあい活動を若い世代からも盛り上げることを目的に、全国の共同募金会で共同企画（コラボレーション）を実施しています。

「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクト 初音ミク × 赤い羽根共同募金



北海道共同募金会と札幌市共同募金委員会が、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社様の協力を得て、2年目となる共同企画を実現させました。

若い世代に募金への協力を呼びかけることを目的に、人気バーチャル・シンガー『初音ミク』のイラストと楽曲を公募。採用された作品は、「赤い羽根共同募金運動」啓発ポスター、応援キャンペーンソングとして、全国の共同募金運動で活用されます。



名古屋グランパス × 赤い羽根共同募金

illustration by (Kenji)
©Crypton Future Media,INC.www.piapro.net piapro

企業・法人 × 赤い羽根共同募金

大口町では毎年、30を超える町内企業・法人において、募金箱を設置いただいています。

社内で募金活動を行う企業もあり、積極的な社会貢献・地域貢献活動として注目されています。

赤い羽根共同募金をとおして、企業・法人も大口町の地域福祉の担い手になっていただいています。

ご関心がおありの企業・法人の方は、どうぞお問合せください。

大口町共同募金委員会事務局 電話 94-0060



平成24年度 オークマ株式会社様の募金活動
『地域の連携、社内の連携で思いやりを集める活動』

共同募金には税制上の 優遇措置があります



共同募金会は、税制上、国と地方公共団体と同じように、寄付に対する『優遇措置の対象団体』になっています。そのため、寄付者は優遇措置が受けられます。

税制上の優遇措置が講じられているのは、共同募金会の行う事業が社会福祉法によって位置づけられた運動であり、共同募金による助成が社会福祉の増進に貢献していると、社会的評価を得ているためです。

●個人からの寄付

所得税(国税)の寄付金控除対象となる上、さらに個人住民税(地方税)の寄付金税額控除対象にもなります。

●法人からの寄付

法人の所得から支出された共同募金への寄付は、全額損金扱いとなり法人税の優遇措置が適用されます。

※共同募金のしくみ・税制上の優遇措置について、詳しくは中央共同募金会ホームページへ
<http://www.akaihane.or.jp>

Use

募金の つかいみち

88% が大口町のために

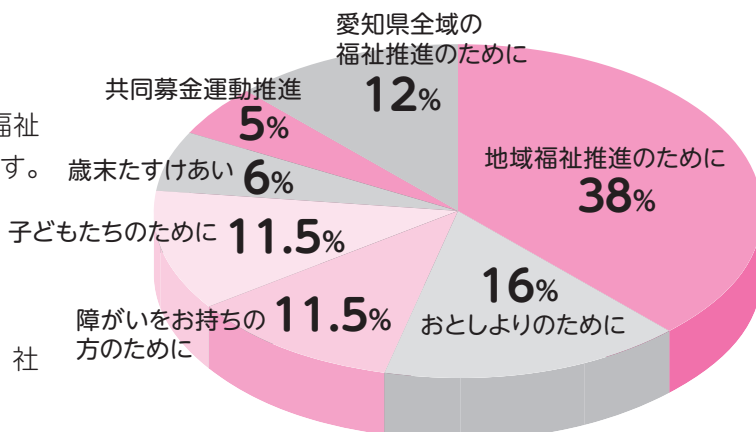
大口町社会福祉協議会が配分を受け、地域福祉の向上のために実施する事業に使われています。(具体的な事業は下記をご覧ください)

12% が愛知県全域のために

県内の社会福祉施設の施設整備や車両購入、社会福祉団体の事業等に使われています。

平成24年度 赤い羽根共同募金実績額

3,461,903円



赤い羽根共同募金 配分金事業(一部抜粋)

- 地域福祉推進のために** 1,320,105円
ひとり親家庭夏休み日帰り旅行、ボランティア養成講座、ふれあいまつり事業、ふれあいサロン事業など
- おとしよりのために** 550,000円
敬老事業、おせち料理配布事業

- 障がいをお持ちの方のために** 400,000円
重度身体障がい者日帰り旅行、障がい者スポーツ大会、障がい者団体の活動助成など
- 子どもたちのために** 400,000円
福祉実践教室、赤ちゃん訪問プレゼント事業(民生委員児童委員ドアノックング事業への協力)
- 歳末たすけあいに** 200,798円
車いす、サロン用品などの貸出用備品整備
- 共同募金運動推進のために** 164,000円
- 愛知県全域の福祉推進のために** 427,000円

障がいをお持ちの方のために

重度身体障がい者 日帰り旅行 参加者募集

障がいをお持ちで外出する機会が少ない方に対して、旅行を通して交流を図ることを目的に、今年も企画しました。

- 開催日/平成25年10月22日(火)
- 行き先/浜名湖周辺と館山寺ロープウェイ
- 対象/身体障害者手帳1級・2級をお持ちの方と介助者(内部疾患の方を除く)
- 交通手段/大型リフト付き観光バス
(※車いすをご利用の方も安心してお出かけいただけます)
- 募集人数/25名(定員になり次第締め切ります)
- 参加費/3,000円
- 申込み/10月1日(火)午前9時から
(電話申込み可)

お問合せ・お申込み先は 大口町社会福祉協議会
電話 94-0060 FAX 94-0059

赤い羽根共同募金配分金事業

地域福祉推進のために

ひとり親家庭 夏休み日帰り旅行

報告

8月3日(土)、町内のひとり親家庭の親子を対象に夏休み日帰り旅行を実施しました。

行き先は、大阪市のユニバーサル・スタジオ・ジャパン。14家族・37名にご参加いただきました。

早朝からバス移動を開始し、午前10時に到着。当日は穏やかな天候に恵まれ、事故等もなく、午後7時まで親子でたっぴりと楽しい時間を満喫しました。

バス代等の必要経費には共同募金が役立てられており、参加者の負担軽減につながっています。

参加者の感想(抜粋)

なかなか親だけではどこへも連れていくことができないので、充実した思い出ができてよかったです。

昨年初参加しましたが、今年もとても待ち遠しかったです。今から来年が楽しみです。



赤い羽根共同募金配分金事業

地域福祉推進のために
(ふれあいサロン事業)

大屋敷新田地区 いっぷく茶屋

新田地区では、平成25年4月からふれあいサロンが始まりました。月1回、集会場に地区住民が集まります。

「いっぷく茶屋」の特色のひとつは、軽費老人ホーム「一期一会荘」の入居者の方も参加していること。これまで交流が少なかった施設入居者の方とご近所さんが、顔見知りになる機会となっています。

「いっぷく茶屋」ではその名のとおり、お茶やコーヒー等の飲物のほか、ゆで卵付きのモーニングも提供しています。

初めての方も、お気軽にお越しください。

※ふれあいサロンの運営費の一部やサロン用備品等には、共同募金が役立てられています。

日時：毎月第1土曜日
9:30～11:30
場所：新田集会場
参加費：100円



「いっぷく茶屋」運営スタッフ

赤い羽根共同募金配分金事業

子どもたちのために

町内小学校 福祉実践教室

●大口南小学校

各学年がひとつずつの科目を体験する方式を採用しています。

3年生から6年生までの児童が参加し、6月20日(木)に盲導犬教室・点字教室・手話教室、21日(金)に車いす体験を実施しました。各学年の児童が、生き生きと福祉活動に取り組みました。

●大口西小学校

6年生が、総合学習の年間テーマとして福祉体験を選択しています。そのため、1年をとおして6つの科目(①点字教室、②視覚障がい者ガイドヘルプ、③手話教室、④車いす体験、⑤高齢者疑似体験、⑥盲導犬教室)を実施する予定です。

7月3日(水)は、ガイドヘルプを実施。見えない人とガイド役の両方を体験し、安心して外出するガイド方法を学びました。

※福祉実践教室を開講するための費用にも、共同募金が役立てられています。



南小5年生 車いす体験



南小4年生 点字教室



南小3年生 手話教室



南小6年生 盲導犬教室



西小6年生 ガイドヘルプ

平成24年度 社会福祉協議会事業報告(抜粋)

去る平成25年5月17日(金)に社会福祉協議会理事会、5月28日(火)に社会福祉協議会評議員会が開催され、平成24年度の事業報告と決算報告が承認されました。

なお、平成24年度の事業報告、財産目録、資金収支計算書、貸借対照表は社会福祉協議会窓口にて公開しておりますので、閲覧希望の方は、本会までお申出下さい。

広報・啓発活動

- 「おおぐち社協だより」を4月、7月、10月、1月の計4回発行
- ホームページを開設し、常時社協事業を公表し、事業の利用及び参加・協力の働きかけを実施
- 大町ふれあいまつりにおいて「ふくしわくわくランド」を開催

ボランティアセンター

- 夏休みボランティア出前講座の実施
南児童センターで車いす体験を実施
平成24年8月22日(参加者数 35名)
- ボランティア養成講座の実施
災害ボランティア養成講座(一泊避難所体験)を実施
平成25年1月25日、2月1日・8日・9日(参加者数 延57名)
- ボランティア研修会の実施
大町町ボランティア連絡協議会と合同で、(株)瑞達社で食育に関する研修会を開催
平成24年11月9日(参加者数 31名)

社協会員募集

- 一般・賛助会員 5,126件
(加入率67%)
- 法人会員 82件

- 団体 61団体(974名)
- 個人 10名
- 総加入者数 984名
(男性398名 女性586名)
- 事故件数 4件
- ボランティア派遣
各種団体・個人からの依頼により、ボランティア派遣を調整(14件)

児童福祉

- 町内小中学校と協働で、福祉教室(福祉実践教室・総合学習)を実施し、福祉教育を推進
(参加児童・生徒数 延1,112名)
- 子育て支援サークルの活動支援
- おもちゃ病院「おおぐち」の支援
- 青少年等ボランティア福祉体験学習事業の実施協力(参加生徒数 延94名)
- 民生委員児童委員が行うドアノックング事業の実施に協力し、赤ちゃん訪問時にお祝い品をプレゼント(配布数 335名)

高齢者福祉



- 「敬老の日」に80歳以上の在宅高齢者及び入所施設利用者へお祝い品の贈呈
平成24年9月14日(配布数 在宅249名、施設150名)
- 単身・高齢者世帯に対し大町町水彩画クラブ、民生委員の協力により、おせち料理配布事業を実施
平成24年12月30日(配布数 92世帯)
- 介護者向け情報冊子「介護まめ知識」

を対象世帯に配布

- 地域見守り支え合いを考える会に参加し、行政、町民とともに見守り体制について話し合い、活動に対する支援を実施
- 大町町高齢者軽度生活援助事業、大町町生きがい活動支援通所事業の受託

心身障がい児者福祉

- 第28回大町町障がい者スポーツ大会の実施
平成24年9月15日(参加者数 302名)
- 重度身体障がい者日帰り旅行の実施
平成24年10月23日(参加者数 16名)
- 大町町おもちゃ図書館さくらの活動支援
- 弁護士による相談の実施
- 大町町障がい者等地域生活支援事業(移動支援事業)の受託
- 精神障がい者を対象とするサロン「フリースペースれんげそう」の運営支援(参加者数 延436名)

母子父子者福祉

- ひとり親家庭夏休み日帰り旅行の実施
平成24年8月4日(参加者数 34名)
- 母子家庭等に対する「就業相談日」を開催
- 母子寡婦福祉会の活動支援
- 小学校、中学校、高等学校等入学のひとり親家庭を対象にお祝い金を贈呈(16件)

福祉関係団体の育成

- 大口町身体障害者福祉協会、心身障害児（者）親の会、更生保護女性会、母子寡婦福祉会、保護司会、遺族会、尾北地区聴覚障害者福祉協会、尾北精神障害者家族会、しらゆり会大口支部への助成

共同募金事業

- 町内各地区・法人のみなさまのご協力により共同募金運動を実施
- 赤い羽根共同募金実績額
3,253,105円
- 歳末たすけあい募金実績額
208,798円
- 共同募金配分金事業の推進と充実
- 募金機能付自動販売機を健康文化センター1階に設置
- 災害復興義援金の募集窓口を設置

貸付事業

- 生活福祉資金貸付制度等の窓口業務
- 町くらし資金・緊急一時貸付等

相談事業

- 心配ごと相談所の開設（毎月第1・第3・第4水曜日）（相談者数 延77名）
- 総合福祉相談の窓口常設
- 日常生活自立支援事業の相談窓口常設

貸出事業

- わたがし機、ポップコーン機、松葉杖、福祉車両、車いす等の貸出サービス（総貸出件数 214件）

在宅福祉サービス3事業所の経営

- 大口社協居宅介護支援事業所
- 大口社協訪問介護事業所
- 大口社協デイサービスセンター

福祉関連事業

- 大口町表彰式典の開催（町との共催）
- 点字投票制度への協力
- 東日本大震災復興支援事業第4弾
- つなげよう絆☆私たちにできる復興支援 in 白山ふれあいの森
- 平成24年8月2日（参加者数 18名）
- 仮設住宅の被災者や若手県遠野市のホストファミリーへの絵手紙作成、炊出し訓練を実施
- 若手県遠野市綾織地区4団体合同研修視察研修会 平成24年11月22日
- 「大口町社会福祉協議会の東日本大震災復興支援事業について」発表
- 平成24年度西尾張ブロックボランティアアフエスティバルの実施
- 平成25年2月24日 弥富市総合社会教育センター（大口町参加者数 13名）



平成24年度 大口町社会福祉協議会 決算報告

【収入】

	(単位:円)	(%)
会費収入	3,184,450	2.4
寄付金収入	1,433,962	1.1
補助金/助成金収入	23,298,678	17.8
受託金	5,595,786	4.3
貸付事業等収入	816,900	0.6
共同募金配分金	3,622,390	2.8
介護保険事業等収入	44,571,436	34.1
支援費等利用料収入	9,851,211	7.6
経理区分間繰入金収入	5,552,360	4.3
繰越金(前期)	23,708,967	18.1
その他	9,053,644	6.9
収入合計	130,689,784	100.0

【支出】

	(単位:円)	(%)
法人運営事業	37,472,995	28.7
企画・広報事業	291,850	0.2
地域福祉推進事業	336,866	0.2
資金貸付事業	651,610	0.5
心配ごと・総合福祉相談事業	482,808	0.4
共同募金配分金事業	3,980,290	3.0
ボランティアセンター活動事業	501,159	0.4
居宅介護等事業	26,863,299	20.6
老人デイサービス事業	25,993,712	19.9
居宅介護支援事業	11,085,842	8.5
当期末繰越金	23,029,353	17.6
支出合計	130,689,784	100.0

平成25年度

社協の会員加入にご協力ありがとうございました

今年7月からの会員募集について、一般会員・賛助会員・法人会員の皆様のご賛同をいただき誠にありがとうございました。会費は、社協で実施する各種事業の貴重な財源として、大切に活用させていただきます。

善意だより

ダンスサークル大口 様
30,000円
尾北ソーシャル連合会 様
31,730円
匿名希望 2,000円

社会福祉に役立ててほしいと、大口町社会福祉協議会にあなたから寄付が寄せられました。厚くお礼申し上げますとともにご報告いたします。順不同(6月6日～8月26日 取扱い分)



介護生活による精神的・肉体的に不調を感じることはありませんか？以下の事を行って、上手にストレスを軽減しましょう。



精神的不調

- **イライラする**……好きな音楽を聴いたり、ハーブティーなどを飲んで、リラックスタイムを設けましょう。好きな香りのアロマオイルをハンカチにしみこませ、介護の合間に香りを楽しむのもおすすめです。
- **やる気が起きない**……朝起きようと思っても、身体が思うように動いてくれず、やる気が起きない時もあります。まず朝日をしっかりと浴びてみましょう。介護サービスを利用して、自分を休ませる事も大切です。
- **よく眠れない**……適度な運動をする、入浴はゆっくり湯船に浸かる、寝る前はテレビやゲームを控えるなどで、眠りの質を高めましょう。心地よく眠るためにも、就寝前のリラックスタイムは大切です。



音楽を聴く



湯船に浸かる



ぐっすり眠る

身体的不調

- **頭痛**……肩こりからくる頭痛なら、血行をよくする事で改善されます。時間のある時に、軽いストレッチをしてみましょう。身体がほぐれて血の巡りが良くなり、リラックス出来ます。
- **肩こり**……同じ姿勢でいたり、筋肉の緊張状態が長時間続くと、肩が凝ってきます。腕をまっすぐに上げる、肩を回すなど、肩や肩甲骨を動かすように心がけて下さい。
- **腰痛**……無理な姿勢での介助を続けていると、腰を痛めてしまいます。また、腹筋や背筋を鍛えることで、腰痛防止になるので、日ごろから運動をするようにしましょう。



大口子育て情報

ぎゅっと

【編集】特定非営利活動法人「まみーぽけっと」

【HP】

http://www.geocities.jp/mammy_pocket/newpage1.htm

野菜ソムリエのおいしいミニコラム

子どもに野菜を食べさせるのはなかなか大変ですね。野菜ソムリエの前田みどりさんのコラムを参考にしてみてください。

ニンジン編

ニンジンがオレンジ色なのはなぜ？

ニンジンには、トマトにも含まれる赤い色素「リコピン」が含まれているからです。

リコピンには抗酸化作用があるので、がん予防やアンチエイジングに効果が期待できます。

また、βカロチンを多く含む野菜として有名ですが、βカロチンは体内でビタミンAに変わり、粘膜を健康に保ち視力の保持などに効果があるとされます。皮の近くに多く含まれているので、よく洗って皮ごと調理するのがおすすめです。

ニンジンの調理は？

定番はカレーやシチュー、サラダですが、とっても簡単なおかずとしてニンジンを千切りにして炒め、塩コショウした後、溶き卵を回しかけて炒め合わせます。

ニンジン臭さが無くなり、お子さまにも食べやすくなります。ぜひお試しください。

家庭に彩りのある野菜と果物で健康的な食事を

野菜ソムリエによる「野菜や果物のお話会」の開催ができます。地元産を中心にその季節の旬野菜・果物をテーマに選び、特性やお勧め調理法をお届けします。例えば、テーマ野菜の食べ比べ、幼児食からどなたでも楽しめるオリジナルレシピによる、デモンストレーションと試食など。

問い合わせ

090-7692-9845(午後4時以降)

日本野菜ソムリエ協会認定

ジュニア野菜ソムリエ 前田みどり

トマト編

トマトは野菜？果物？

実はナスやピーマン、ジャガイモなどの遠い親戚にあたる果菜類です。

トマトが赤いのはなぜ？

それはリコピンという色素で、昼と夜の寒暖の差が大きいほど赤色が鮮やかになります。トマトの赤い色素「リコピン」には、様々な生活習慣病の原因となる活性酸素を消去するはたらき＝「抗酸化作用」があることがわかっています。

トマトの料理は？

一般的には生食ですが、種類によっては加熱してもおいしくいただけます。例えば～

桃太郎…水分、果肉ゼリー部が多いので「スープ」
ファースト…果肉部が多いので「バターソテー」など
それぞれの食感を楽しんでみてはいかがでしょうか。

バナナ編

バナナには、様々な栄養素がバランス良く含まれています。主に糖質でブドウ糖や果糖、ショ糖、でんぷんを多く含み、これらは体内に吸収される速度がそれぞれ異なるため、持続的なエネルギーに変わります。スポーツ選手に好んで食べられるのもこの異なる糖質が含まれているためですね。他にカリウムやビタミンB。特に注目したいのが葉酸で、DNA合成や細胞の発達に重要な役割を持っているので、妊娠中の方や成長期に必要な栄養素です。また、貧血防止にも効果があるとされています。

保存方法は冷蔵庫に入ると、低温障害を起こし外皮が黒く変色するので、常温で風通しの良い場所に置きます。暑い夏は、1本ずつラップに包み、冷蔵庫の野菜室での保存も可能。又は、房のままビニール袋に入れ、保冷バックに入れて野菜室に入れるのも良いでしょう。黒い斑点(シュガースポット)が出てきたら甘みが増して食べ頃です。

ボランティア 情報局

夏休み中、3つのボランティアサークルによる、出前講座が、各児童センターでおこなわれました。簡単で楽しい体験をとおしてボランティア活動に興味をもってもらえるように、との願いをこめての講座。どの会場も子どもたちが自然と夢中になるように、様々な工夫がされていて、参加した100人ほどの子どもたちは、「楽しかった〜」「初めてだ〜」「できん〜」などと、笑顔いっぱいでした。

大口町手話サークル コスモス

毎週木曜日午前10時から12時まで、健康文化センターボランティア室にて活動

7月25日(木)、北児童センターにて40人ほどの参加者でおこなわれました。自己紹介や簡単なあいさつの手話を体験した後、ジェスチャーゲームや言葉を使わないフルーツバスケットで、盛り上がりました。

終わった後の感想は「言葉を使わないから、一生懸命、目で見たい」「学校の授業より集中したよ」「言葉を使わず伝えるのは、難しいなあ」「フルーツバスケット楽しかった〜」などでした。



ボランティアさんの説明、よく見なくちゃ



よく見て、よ〜く見て



授業より集中したよ。あっ、学校の先生ごめんなさ〜い



最後はみんなで「アイラブユウ」の手話で記念撮影



子どもたちに負けないうらいのパワーがあるボランティアのみなさん。なにしろ各会場、30人以上の子どもたちのちょっとしたもめごと、意外な反応にもあわてず対応できるのは、日頃の活動の成果と、柔らかい心があるからではないでしょうか。ボランティアのみなさん、とてもキラキラと輝いていました。

高齢者疑似体験 うさぎとかめ

偶数月第3水曜日午前10時から12時まで、町内小学校や依頼のある学校や施設で活動

8月19日(月)、西児童センターにて30人ほどの参加者でおこなわれました。耳栓とゴーグルをつけて、紙芝居を見たり、間違いさがしをしました。手袋をはめ、腕に重りをつけて上着の脱着をしたり、箸で豆運びもしました。最後は、「全部つきたい人～」と聞くとたくさんの子の手が上がりました。



間違いさがしは、
ゴーグルはずして、
やりたいよ

豆運び、
手がうまく
動かないよ



待ち時間に、
右手と左手の動きが違う
手遊びをするよ



いつもは簡単に
できるのに…

子どもの感想は「手袋はめての豆運びは、無理～って思ったよ」「間違いさがしするとき、ゴーグル取りたくてしかたなかった」「ボタンできないからイライラした」「お年寄りって大変なんだ」などでした。

大口おもちゃ図書館 さくら

毎月第2土曜日、第3木曜日、午前10時から午後3時まで、健康文化センターおもちゃ図書館にて活動

ビーズループは、
目が見えない子が
遊びながら空間を
学べるおもちゃなの



へ～



緊張する～
そっと置いてね!

こうやって
積んでみようよ



8月28日(水)、南児童センターで35人ほどの参加者でおこなわれました。『さくら』の活動紹介の後、実際におもちゃの体験遊びをしました。小さな天然木のカプラは、自由に積んだり並べたりできます。グループで協力し、時がたつのも忘れるほど集中。完成後、一気にジャラジャラ～と崩す音に、子どもたちの歓声が上がりました。

大きなバルーンは、全員で広げて回して大興奮。おもちゃ図書館では、このような楽しいおもちゃの貸出を行っていますので、利用してみてもいいですよ。

子どもの感想は、「みんなで遊べるおもちゃ、すごく楽しい!」「カプラ、何度も崩れちゃったけど、あきらめなかったよ」などでした。

■編集後記■ 取材・作成 / 編集ボランティア oz

20年ごとに繰り返される伊勢神宮の式年遷宮、何故20年ごとなのかははっきりした記録がなく不明なのだそうです。理由の一つは、技術の伝承の為ではないかと推測されています。その式年遷宮、平成17年から着々と準備され、この秋、無事完成となりました。式年遷宮のニュースを見ながら「ところで伊勢神宮にある三種の神器って何か知ってる?」と尋ねたところ、返ってきた答えはなんと「冷蔵庫!」[@_@:]!!! 多分、きっと伊勢神宮に冷蔵庫はあると思うけど…



やわらかい心でいつも輝いて



福祉関係団体

大口町遺族会が協力 平和学習会

8月19日(月)、大口町平和祈念式典に引き続き、平和学習会が開催されました。

遺族会が、広島平和記念資料館の被爆体験証言者を講師として招き、大口中学校平和学習会へ派遣するのは今年で4年目。DVD『ヒロシマ・母たちの祈り』を上映後、『次世代へヒロシマの伝承を』と題し、細川浩史氏の講演が行われました。

細川氏は、今では貴重な存在となった被爆体験証言者として、さまざまなメディアや講演の場で、ヒロシマの体験を訴え続けています。

遺族会は、平和学習会をとおして、次世代である大口町の子どもたちに、命と平和の尊さを伝承していきます。



大口中学校生徒が平和学習会に参加

大口中学校JVC 夏休み福祉体験

8月22日(木)から28日(水)の5日間、大口中学校JVC(ボランティア委員会)が夏休み福祉体験に参加しました。

これは、社協の推進する青少年向けの福祉体験事業で、JVCの生徒たちが、福祉施設を利用する子どもや大人と交流をはかりながら、福祉を学んでいく機会を提供するもの。

今年度は、約60名の生徒が町内保育園や児童センター、高齢者施設で体験活動を行いました。

参加した生徒の感想(抜粋)

「小さな子が大好きで、毎年楽しく参加しています。将来は保育士になりたいです。」
 「福祉の仕事をしている家族の姿を見て、自分も人の役に立つ活動がしたいと思って参加しました。」



保育園児と交流する中学生

町委託事業

大口町はつらつ健康体操事業 『いきいき教室』

社協では、平成25年4月から町の委託を受け、『いきいき教室』を毎週火曜日・金曜日(月8回)実施しています。

この教室は、まだまだお元気な高齢者の方が対象。介護予防を目的に、楽しく身体を動かしながら、健康づくりを行っています。ただ今、9月現在、15名の方が参加しています。

教室では、経験豊富なスタッフが先導し、ボールやタオル等を使って安全にできる体操や動作の練習を行っています。外部講師の指導を受けることもあります。

また、レクリエーションを兼ねて、脳を活性化するクイズ(脳トレーニング)、おやつ作り、月1回のお楽しみ会等の企画も実施。スタッフの工夫で参加者の皆様の盛り上げ、毎回、笑顔と笑い声の絶えない教室



『いきいき教室』参加者の皆様とスタッフ

となっております。

4月から参加した第1期生11名の方々は、半年間の課程を終え、9月に卒業。10月からは新たな参加者の皆様を迎えます。

高齢者の方の『いきいき』と輝く命と健康を願い、今後も楽しい教室を実施していきます。



笑って、動いて、心も身体もいきいき!



仲間での協力、わらびもち作り

受講者
募集

シェフと作ろう！ 災害時の非常食講座



災害時に命をつなぎ、元気に生き抜くための「食」の知恵。
シェフならではの知恵と経験を活かし、手元にある限られた食材や支援物資を使い、誰でも簡単に調理できるアレンジレシピを伝授します。

Takeshi Ito Profile

講師 大口市在住シェフ

伊藤 健氏

1974年生まれ 大口市出身

大学卒業後、料理の道に入り4年余り、イタリア・スペインの地方で働くことにより、食は土地の文化でもあることを知る。

食の大切さ、食によってもたらされる健康、食により広がる人間関係の輪を感じ、それを広めようと日本に帰国。

東京、名古屋のレストランで料理長をしていたが、突然、病に倒れ車椅子の生活を余儀なくされる。

そうした経験から、「高齢者の食」「障害者でも作れる食」「食の大切さ」「食の安全性」を車椅子で語り廻っている。

平成23年度以降、大口市社会福祉協議会主催『車椅子シェフの料理教室』講師をはじめ、各種料理教室講師、尾北ホームニュースのレシピ連載等、多方面で活躍中。

【経歴】

- イタリア フィレンツェ「Academia」料理長
- イタリア モンタルチーノ「Poggio Antico」1つ星
- イタリア ピエモンテ州「Casinale Nuovo」1つ星
- スペイン バルセロナ「El raco de en Freixa」1つ星
- イタリア ミラノ「Aimo eNadia」1つ星
- 東京 日本橋 レストラン「サンパウ」2つ星
- 東京 丸の内 スペインバル 料理長
- 名古屋 ミッドランドスクエア スペインバル 料理長

日時：平成25年10月26日（土）
10:30～12:00（10:15～受付）
場所：大口市健康文化センター 1階 栄養実習室
参加費：500円
対象者：町内在住・在勤の方※アレルギーをお持ちの方は事前にお知らせください
定員：16名（定員になり次第、受付を修了）
持ち物：エプロン、三角巾、筆記用具
申込み：平成25年10月2日（水）～10月18日（金）
窓口・電話・ファックスで受け付けます。
申込先：大口市社会福祉協議会
電話 94-0060 FAX 94-0059

Column

災害を考える

南海トラフ巨大地震が起こると、愛知県内でも物流や電気・ガス・水道等が止まり、わたしたちの食生活は大きく変わることが予想されます。また、支援物資や非常食の数には限りがあり、大勢で分け合って食べることになるかもしれません。

東日本大震災の被災地やその周辺では、手元にある食材を工夫してしのいだ人々がいました。「少しでも手を加えた温かいものを食べると元気が出る」「（過酷な状況で）食べるときくらい楽しくないとやっていられなかった」といった声があったそうです。

災害時、体も心も元気に生き抜くための「食」の知恵。それを知ることが、私たちにできる災害への備えのひとつではないでしょうか。

予告 ふれあいまつり2013

ふくしわくわくランド
11/2（土）開催します！

社協の応援するボランティアが、日頃の活動を発表し、福祉をPRします。

スタンプラリー
もあるよ！

防災・復興支援フェア

- ①災害救援ボランティアはそりを使った炊出し実演
- ②D・サポート丹羽 災害のパネル展示
- ③大口絆つなぐネット アレンジ非常食の試食 東北支援ドリンク販売



福祉体験

- ①高齢者疑似体験 うさぎとかめ お年寄りの体験
- ②要約筆記スマイル大口 OHP体験
- ③大口町手話サークル 手話体験
- ④大口おもちゃ図書館 さくら（11/3日開催）遊びの広場

調理・修理・掃除等

- ①調理・給食ボランティア 豚汁の調理・販売
 - ②おもちゃ病院おおくち 壊れたおもちゃの修理
 - ③トヨタ紡織株 車いす掃除、古本回収
- ※古本は雑誌除く。洗浄後、再販する仕事を行う障がい者就労施設へ無償提供します。

災害ボランティア コーディネーター養成講座

受講者
募集

わたしたちと一緒に、災害ボランティアセンターを運営して下さる方を募集します。

定員：25名（※定員になり次第、受付を終了）

対象者：町内在住・在勤の方

参加費：500円

申込み：平成25年10月2日（水）午前9時から
窓口・電話・ファックスで受け付けます。

主催：大口町社会福祉協議会

協力：丹羽消防署、愛知県防災局、
災害救援ボランティア

申込先：大口町社会福祉協議会

電話 94-0060 FAX 94-0059

※ボランティア初心者の方、大歓迎です。
お気軽にお問合せください。

Q. 災害ボランティア コーディネーターって？

A. 災害ボランティアセンターの運営に携わっていただくボランティアスタッフのこと。災害発生時、全国から集まるボランティアの受付・整理を行い、被災者の要望を把握してボランティア活動に結びつける役割を担います。

災害ボランティアセンターとは、ボランティアが効率的に被災者支援の活動ができるよう調整するための組織です。公的機関や社会福祉協議会等が協力して設置することが多いのですが、運営にはボランティアスタッフが欠かせません。

東日本大震災発生後、東北各地の社協が立ち上げた災害ボランティアセンターでは、現在も多数の災害ボランティアコーディネーターが活躍しています。

	日時	場所	内容・講師等
第1回	11/9(土) 9:00~12:00	健康文化センター 1階 多目的室	①オリエンテーション ②丹羽消防署のカリキュラムによる講習・災害時に必要となる救命方法 (丹羽消防署職員)
第2回	11/16(土) 9:00~12:00	健康文化センター 1階 多目的室	①愛知県の地震対策、広域ボランティア支援等 (愛知県防災局職員) ②被災地支援活動の報告(災害救援ボランティア)
第3回	調整中	名古屋大学 ES総合館 (千種区不老町) ※バス送迎あり	①名古屋大学減災連携研究センターの見学及び取り組みに関する聴講 ②同センターで開催された「防災アカデミー」資料による学習
第4回	11/30(土) 9:00~12:00	健康文化センター 1階 多目的室	災害図上訓練(DIG) (災害救援ボランティア)
第5回	12/7(土) 9:00~12:00	健康文化センター 1階 多目的室	①災害ボランティアセンター立上げ・運営訓練 (災害救援ボランティア) ②修了証書授与式

※受講希望の方は、事前下記講演会の聴講をお願いします。

西尾張ブロック社協 災害救援活動会議主催

『東日本大震災発災から現在までの被災地大船渡の変遷』

講師：岩手県大船渡市在住 ㈱東海新報社 常務取締役 上野和彦氏

日時：10/12(土) 13:30~受付 14:00~開会(一般の方歓迎!)

場所：健康文化センター4階 ほほえみホール

岩手県遠野市の災害ボランティアセンター



大きな被災をまぬがれた内陸部の遠野市は、壊滅的な被害を受けた被災地沿岸部での活動を希望するボランティアの受入拠点となりました。今後、南海トラフ巨大地震が想定されている東海地方でも、内陸部が受入拠点となる可能性があるとされています。